

憲法は再稼働を認めない



関西電力大飯原発の運転差し止めを命じる判決を受け、垂れ幕を掲げる弁護団ら 5月21日午後、福井市

画期的な大飯差し止め判決

「コストより安全」

判決は「原発は電気を生み出す一手段である経済活動」であり、憲法上は「人格権よりも劣位」とし、「コストより安全」を明確にしました。

「国富」を喪失

政府は原発を動かさなければ輸入燃料費が増えて、「国富が流出」と脅しています。判

決では「豊かな国土に国民が根を下ろして生活していることが国富であり、これを取り戻すことができなくなることが国富の喪失だ」と断じています。

「安全神話」を断罪

耐震性では「基準震度を超える地震が到来しないというのは根拠のない楽観的見通し」と安全神話を断罪しました。

電力 原発なしでも大丈夫

日本の原発は昨年9月から1基も動いていません。それでも猛暑のときも、冬の寒冷地でも、全国どこでも電力不足は起きていません。今夏は、経産省も電力9社も原発なしでも余力があることを認めています。

再生エネ 思いきった転換を

原発は再稼働せず、廃炉に向かうことが最も現実的です。再生可能エネルギーの思い切った普及、低エネルギー社会への転換こそ、福島事故という痛苦の経験をした国がとるべき最も現実的な責任ある態度です。

世論に敵対「原発永久化宣言」

エネルギー基本計画

反省なく 新たな「安全神話」

安倍政権が4月に閣議決定した「エネルギー基本計画」は、新たな「安全神話」で再稼働をすすめ、福島原発事故などなかったかのような「原発永久化宣言」です。

1基も動いていないのに「重要電源」?

「エネ計画」では原発を「重要電源」と位置づけています。1基も動いていないのになぜ「重要」か。再稼働だけでなく、新增設さえ可能にし、長期にわたって原発依存を続ける狙いがあるからです。

究極の高コスト、最悪の不安定電源

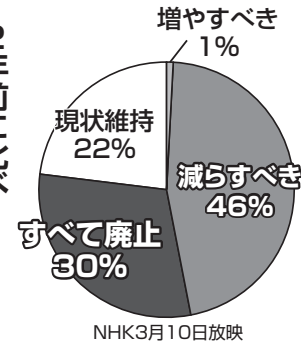
原発を「重要なベースロード電源」とするのは、「コストが低廉で供給が安定している」からとされます。しかし「核のゴミ」や事故処理の費用を含めれば原発は「究極の高コスト」。ひとたび事故を起こせば一気に大電力がなくなる「最悪の不安定」電源です。

避難計画は「机上の空論」

事故が起きた時の避難計画は自治体任せ。計画策定は対象自治体の53%にとどまっているうえ、実際に事故が起き、いっせいに避難すれば、大渋滞で避難できないなど「机上の空論」です。

国民の願い 原発ゼロは

2年前に比べ「すべて廃止」が10%増



安倍内閣の運転再開方針

